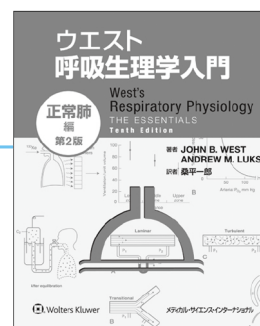


ウエスト 呼吸生理学入門：正常肺編 第2版

訳：桑平 一郎

東海大学医学部内科学系 呼吸器内科学教授/付属東京病院 呼吸循環器センター長



メディカル・サイエンス・インターナショナル
4,104 円 (本体 3,800 円 + 税 8%)
B5 変 / 260 頁
ISBN 978-4-89592-871-7

John B. West 先生の『呼吸生理学入門 正常肺編』とその姉妹本『呼吸生理学入門 疾患肺編』に、今さら紹介は不要だろう。医療者ならどこかで一度は見聞きしたことのある呼吸の本である。日本語版のタイトルは第2版だが、原著は1974年の第1版から40年以上を経て、今回の改訂で第10版になる。呼吸器だけにとどまらず、医学書業界を代表する超ロングセラーである。

呼吸器疾患を学び始めたとき、呼吸不全の治療に苦労したとき、人工呼吸器を扱うようになったとき、多くの医療者はおそらく一度は呼吸生理を勉強しようと試み、おそらく何度か挫折する。いかんせん、呼吸生理というのは無味乾燥にみえるのである。「肺泡気酸素分圧が低下すると肺血管収縮が起こる」とか「体内には酸素よりも二酸化炭素の貯蔵量のほうが多い」とか聞かされても、実際の意味がわからなければ頭に入ってこない。しかしこれが、「肺炎になっても、局所の肺血管収縮

のおかげですぐには酸素飽和度が低下しない」とか「酸素濃度を変えたときより、換気量を変えたときのほうが平衡に達するのに時間がかかる（ので、血液ガスをとるまで長めに待つ）」であればどうだろう？ 俄然興味が湧くのではないだろうか。

このように呼吸生理は臨床に直結していて、本来学んで楽しいものである。『ウエスト 呼吸生理学入門』には、この版から「症例検討へのいざない (Clinical vignettes)」が追加された。これが非常にいい。呼吸生理が臨床または我々の身体のしくみにどうかかわっているのか理解するよい手引きになっている。ポイントがわかりやすくなるので、各章末のこの部分を先に流し読みしてから本文にとりかかるのを個人的にはおすすめする。

読み進めると、医学書の翻訳にありがちなゴツゴツした読みにくさがないのに気づくだろう。それもそのはず、本書の翻訳は『呼吸のトリビア』(中外

医学社) (素晴らしいシリーズなので一読をすすめる) も執筆されている呼吸のプロである桑平一郎先生がすべて行われている。随所に加えられた訳注も、一見とつづきに呼吸生理を理解する助けになるだろう。

「入門」とはいえ、寝転がってサラッと気軽に読める本ではない。骨太の内容で、時には何度も読み直さなければ理解できない箇所もあるだろう。しかし、苦労しながらでも我慢強く読み進めていくうちに、呼吸生理が系統立てて理解でき、霧が晴れるように呼吸の全体像が見えてくるという魅力をもった本である。

(田中 竜馬)